

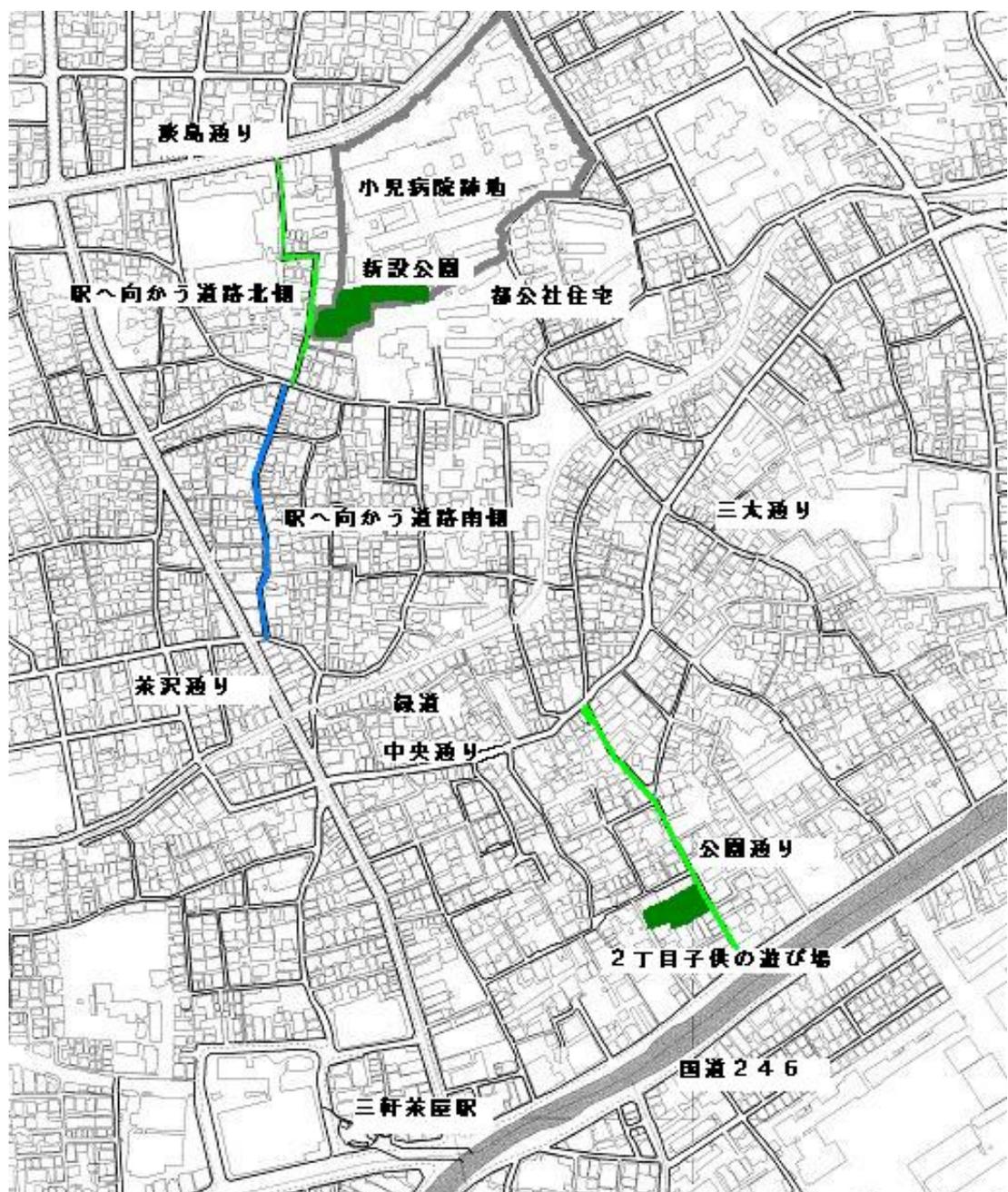
木造密集市街地における道路景観整備の調査・研究

活動概要報告書

1. はじめに

太子堂2・3丁目地区では、公有地（旧国立小児病院）の売却に伴う大規模団地（新たに650戸1400人居住）が都市機構（旧都市公団）により開発される。また、都公社の建替え（新規220戸440人）が予定されている。都市機構の施工による外周新設道路から駅方向へ新たに入出口（公園）が新設されるので、周辺密集市街地の中を通り駅へアプローチすることになる。歩行者増加のための道路空間整備が必要となると思われるのでその要因を調査し、電線地中化についても検討してみた。

また、公園通りは既に高圧線が途中まで埋設済みであるので、検討の対象に加えた。



2. 活動記録

昨年度より活動を行なっている「暮らしのみち研究会」の活動の一環で行った。

(別紙、活動記録 様式6-2 参照)

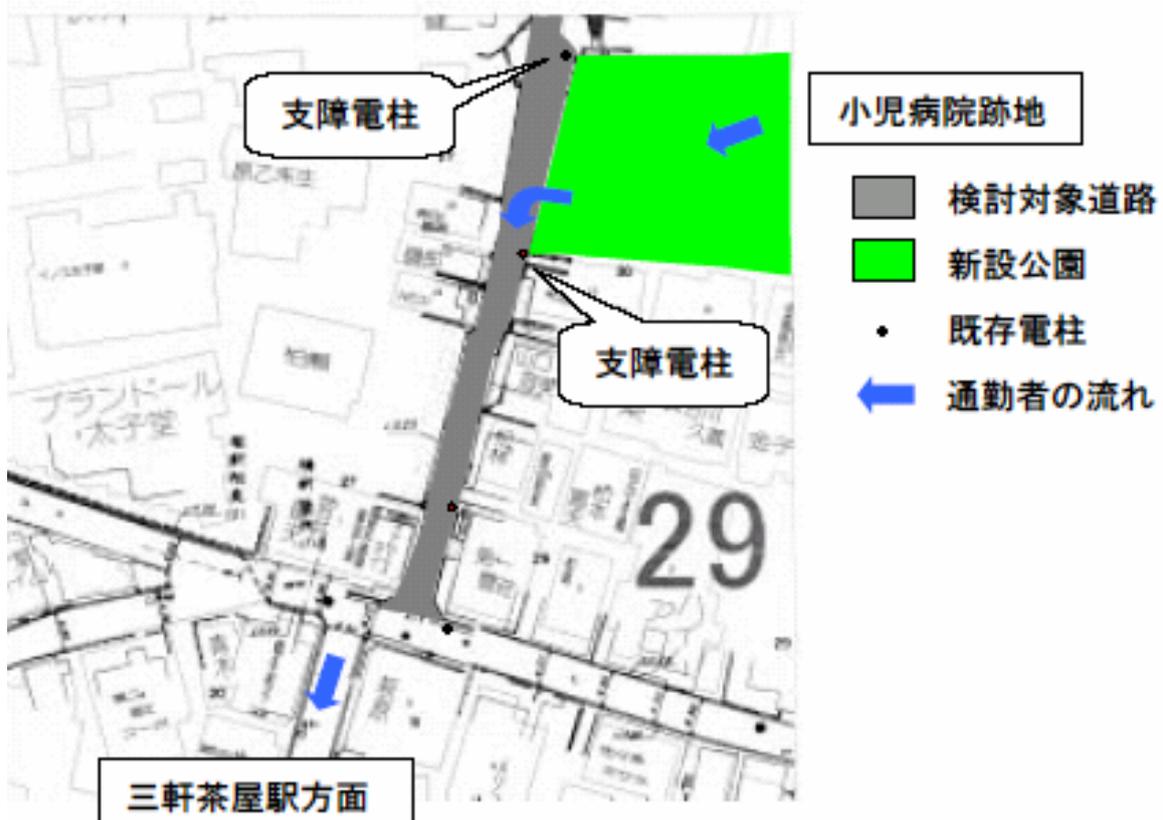
「暮らしのみち研究会」は、太子堂と隣接の三宿も含めたゾーンシステムを構築すべく検討をしていましたが、今年度は都市機構(旧都市公団)によりその敷地内部に新設される道路の提案を早急にまとめなければならず、前半はこの議論を優先して進めてきました。

12月にこの提案がまとまりましたので、1月以降本格的に今回のテーマにつきワークショップを企画し、その実行(3月13日)と結果分析を行った。また、電線地中化についても2ヶ所について別途、専門的考察を行った。今回は地域全体での検討はできなかった。

・ 跡地南西側から駅へ向かう道路 北側

現状：幅員2.7m、延長250m(クランクも含む)、何も計画されていない道路。
新設公園を下って道路に出るところは拡幅(歩道)が予定されているので、現在の電柱位置が拡幅により不自然な位置となれば、多少の移転を考慮する必要あり。景観としては新設公園を下ってくる時の目線に電柱・電線が横切るので、何らかの工夫が必要と思われる。新たな大規模団地の中に防災空地が予定されているので、そこへのアプローチという意味で急坂のバリアフリー化、電線の地中化などの課題も検討した。円泉寺通りとのT字交差点は、危険なので自転車など注意が必要。スロープ状の公園の緑が道路から見える予定なので、歩いていても楽しい道になるよう期待されている。

一方、電線類地中化については、別紙検討書(東電タウンプランニング(株)作成)のように、難問が残されている。



・ 跡地南西から駅へ向かう道路 南側

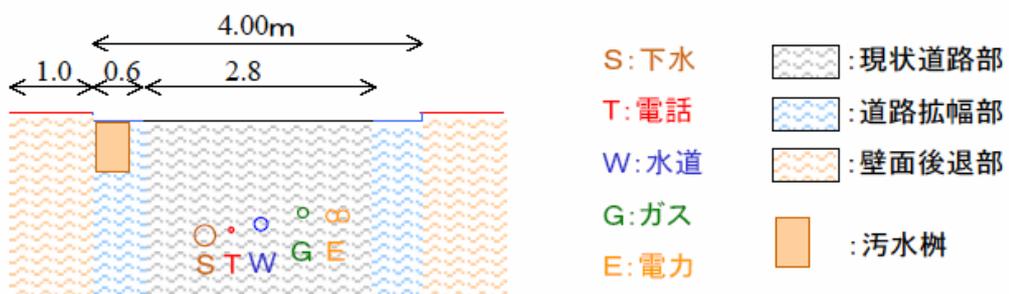


現状：幅員約4m、延長200m、地区計画では何も規定していないが、昭和60年策定のまちづくり計画では、地区サービス道路（2次整備）に位置付けしている。道の両側に東電柱とNTT柱が立っているため、歩行者が歩きにくい。歩行空間と電柱の関係を整理する必要がある。比較的に木や花を植えている空間（民地と街づくり用地）が道に面して存在しているため、景観を良くしていく基盤は存在している。

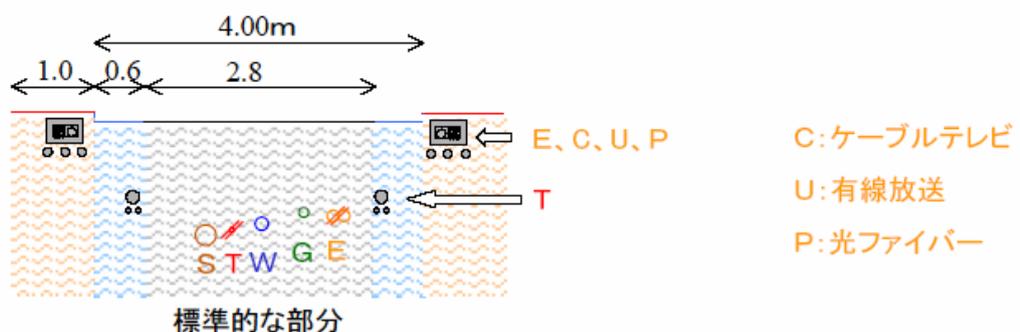
・ 公園通り

現状：幅員2.7～4m、延長250m、地区計画で道路中心より3mの壁面後退を指定。246から公園前までは、高圧線は地中化済みであるため、その道の電線類地中化について検討してみた。別紙検討書（東電タウンプランニング㈱作成）によると、道路が4mになり壁面後退がさらに1m確保できる前提では技術的に可能であるが、1mの民地に管路を設置する場合の問題点も列挙された。

① 現況道路断面(例)



② 標準的な部分



4 m道路の中で2項道路後退部分への管路設置や設置・管理費用の問題点も含め、太陽電池などによる発電や燃料電池が普遍化されるであろう将来も見据えた今後のさらなる検討が期待される。

また、今回この道路に現存の東電柱1本を道路反対側の公園に移設する状況になった。

(経緯は別途資料参照) 当該敷地所有者の電柱排除の意見だけで道路反対側へ移設されしまうという、「まち」としての景観や「まちづくりの合意」も含めた矛盾を今後整理していく必要も認識した。



左が新しい電柱、右が撤去される電柱

3. 今後の展開

公園通りの前述電線類地中化の検討にからみ区も含めた関係各機関が集まって議論した中で、この地区は、政府の都市再生計画でも取り上げられている地区なので地区全体をどう考えていくのかを議論する必要があるとの意見が出た。これに基づき、来年度は地区全体の電線類地中化を議論する場を設け、関係各機関の意見も盛り込んで、更なる住環境改善を提案していきたい。

また、緑化環境も益々乏しくなると予測されるので、「通り」としてのバランス良い緑化を地域全体で検証していく必要も感じられた。

さらに、普段の「道」と防災時の「道」の両面からの見直しをしてみると、通り抜けを推進する必要がある個所も見えてきたので、今後のまちづくりに生かしていきたい。

以上、